

1  
子ども・若者の  
発表

2  
意見交換

3  
地域グループ  
の発表

4  
意見交換  
まとめ・講評

# 1. 子ども・若者の発表



## ①子ども若者

～子どもの居場所フロッターより～



最近では子どもの権利を守る、子どもの声を聞くことが叫ばれているなか、子どもの権利を守るためには、安心して過ごせる居場所が地域にあることが重要ではないかということで、児童館だけでなく子ども食堂や学習支援団体などをつなぐ役割として「子どもの居場所フロッター」として活動しています。

駅周辺のまちづくりに子どもの声を反映させるため、粕谷児童館・烏山児童館や中学校と連携してワークショップを開催し、70枚ほどの未来絵日記が集まりました。小中学生の声を発信して、それがかたちになっていくとなると、子どもたちのためにもなるし、引っ越してくる若い世代の人たちのためにもなると思います。

年齢が低い子どもほど直感的で自由な発想もあり、あれがないから欲しいという意見が多かったです。遊べる場所が少ないというのは感じていて、ボール遊びができる場所はほとんどありません。また、中高生からは遊び場だけでなく、勉強できる場所へのニーズが多く、「学習スペースが欲しい」という声が目立っていました。全体として子どもたちの意見は、遊びや学びの場など具体的な環境に関する要望が多かったです。

ワークショップの中で集めた未来絵日記



## ②都立芦花高等学校



「バランスシティ」

広い歩道と自転車専用レーンを整備して、歩行者・自転車・車の動線を分けることで安全なまちにしたいと思いました。自身の自転車通学の経験からも接触事故の危険を感じていて、この提案をしました。また、駅周辺には学校や幼稚園があるので、子どもや高齢者、車椅子利用者も安心して通行できるように広い歩道を整備して、通学路等の安全性を向上させ、学生や保護者の不安を減らせれば良いと思います。

「ジブリっぽいまち」

自分の理想の住宅街を考えて、木造の家や植物の多い道、大きな木のある公園があるまちを提案しました。大きな木が1～2本あるだけでもまちの雰囲気がガラッと変わりますし、ヒートアイランド対策など環境面にも効果があると思います。さらに、広い公園の地下を貯水槽とすることで災害対策にもなります。また、建物は廃材を活用して建てることで、環境にも配慮し、おしゃれな住宅街になると思います。

「冬の夜」

高校から駅までの道が暗く長いという生徒の声から、冬のイルミネーションを提案しました。光の演出に加えて食べ歩きができるようにして、歩く時間を楽しくし、また、その様子をSNSで発信することでまちの魅力を広めたいと思いました。

「標識で認識」

交通量が多く危険な駅前通り南側のY字路をイメージして、壁や地面に凸凹した標識、光る標識、音が鳴る標識など、歩行者や自転車にも分かりやすい標識を整備して安全性を高める提案をしました。さらに、標識を活用して商店街の入口としての魅力発信や、スマートフォンで情報を得られる仕掛けを取り入れ、ユーモアあふれる千歳烏山にしたいと思いました。

「ドローン化」

ドローンが食べ物や荷物を配送する未来のまちを提案しました。デリバリーサービスはいまでもありますが、将来はそれがドローンで行われることにより、駅から離れた住宅街の住民や高齢者、体の不自由な人の生活が便利になると考えました。ツールを活用し、人々も支え合う豊かなまちになることを期待しています。

## ③子育て世代

～子育て支援コーディネーターより～



おでかけひろばや児童館などで子育て世代の方の悩み相談等を受ける地域子育て支援コーディネーターとして活動していて、駅周辺のまちづくりに子育て世代の意見を取り入れるため、インタビューの告知等のお手伝いをさせていただきました。

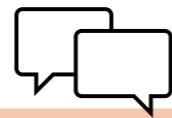
子どもと入れる飲食店が少ないのは切実な問題です。店先に「子連れ可」の表示があると心理的なハードルが下がるので入りやすくなります。お店があってもエレベーターがないため、ベビーカーで2階以上に上がれないというバリアフリーの課題も根強くあります。新宿の伊勢丹や高島屋などの大型施設のように授乳やおむつ替え設備がお店と同じ場所にある施設は便利で良いという意見がある一方、大型施設が少ないことが烏山らしさでもあるという意見もありました。

また、多世代で楽しめるイベントを求める声も多く、同じ空間に多世代が一緒にいるだけでも良く、地域に見守られている安心感を求めているのかなと思いました。他にも駐輪場の利用の不便さ、南北移動の不便さ、自転車利用の危険性などの声もあり、共通するのは、子育て中の心理的負担の軽減が求められていると思います。ひとつの建物で用事が済む便利さ、施設の空き状況が事前に分かる安心感、そして地域の温かな見守りの目、これらが整うことで、親御さんは孤立せず、心にゆとりをもって子育てができるようになるのではないかと思います。

インタビューを通じて、子育てを客観的に考える機会ができて良かったと伺っています。住むまちについて声を出すことが地域への愛着を育み、みんなでまちを育てていくことにつながると感じています。



## 2. 意見交換



### ● コミュニティについて

・世間ではデジタル化が進み、情報がスマートフォン中心になる中で、人とふれあい、話すことによって得られる安らぎがだいぶ減っていると思います。それを補うため、公園や交流できる場所など人が自然に集まり関われる空間を求めている印象があります。デジタル化とは別に、アナログ的な人と人とのつながりが今後大事になっていくと思います。

### ● みどりについて

・まちにみどりが少なくなっているのので、昔のようなみどりの中に家がある感じのジブリっぽいまちがいいなと思いましたし、若い世代がみどりのあるまちを望んでいることが嬉しかったです。

### ● 交通環境について

・都立大のある多摩ニュータウンは計画的につくられ、歩車分離も図られています。千歳烏山は人も自転車も車も混然としていて、我々学生はその状況に問題意識を向けていましたが、地域の方々の意識も共通していた点が印象的でした。  
・高校生の提案がとても気に入りました。千歳烏山では、自転車は生活に欠かせないので、自転車専用レーンの発想は面白かったです。  
・交通問題は長年話し合っているけど解決できていません。最終的には一人ひとりのマナーが重要で、標識等を整備しても、利用する側の意識が伴わなければ解決は難しいと感じています。そのため、啓発活動やコミュニティづくりを通じて意識を高めることが大切だと思うので、若い世代と一緒に取り組めたら嬉しいです。  
・自転車問題に対してすぐに実行できそうなことですが、商店街などの路上に子ども乗せ電動自転車のサイズを想定した斜めの駐輪のラインを引くだけでも、駐輪環境は大きく改善するのではないのでしょうか。区が自転車置き場として認め、違法駐輪の撤去や注意を行うのではなく、並べる支援に転換することで、自転車問題の解決につながると思います。

### ● ユニバーサルデザインについて

・ベビーカー連れでエレベーターやバス利用の際に配慮のない言動を受け、不安になっている子育て世代の方がいます。周囲の方がベビーカー利用者に理解を示し協力するようになってほしいと思います。  
・車椅子利用者の立場からすると、災害時を考慮して建物の計画やまちづくりを進めてほしいです。東日本大震災の際にエレベーターは停止しましたが、スロープが併設されていたので避難できました。また、若者や行政職員も車椅子体験をしてもらって、当事者の視点を理解してほしいと思います。

### ● 新たな視点

・大学では都市政策を学んでいるため、その視点でまちを見る傾向があります。小、中、高校生の意見を聞いて、専門的な視点では見えにくい気づきが得られて面白かったです。  
・若い世代や子育て世代の視点に学ぶことが多く、特に自転車や交通安全に関する意見は自分では気づきにくい点だったので、今回得た気づきを今後のまちづくりに活かしていきたいです。

### ● 今後のまちづくりについて

・烏山には3つの高校があり、毎年多くの高校生が巣立っていきます。まちづくりに関わった経験が将来戻ってくるきっかけになればと期待もあります。若者が応援団のように関わっていけばまちも変わっていくと思うので、若者が参加するこの流れを続けていただきたいです。

烏山地域には子ども関係の団体や多様な施設がありますし、地域の活動も活発です。世代や分野を越えて、それらをつなぐことができると、可能性が広がっていくと思います。行政としても、福祉の分野では「つなぐ烏山」という取り組みを行っていますし、まちづくりフォーラムをはじめ、さらに地域の方々をつないでいけたらと考えています。



烏山総合支所長

まちは変わっていきます。明日変わるところもあれば、1年後のところ、10年後のところもあります。変わる場所やタイミングを見極めて提案することが大事です。京王線高架化など駅周辺に大きな変化に対する提案だけでなく、店の入れ替えや住宅の建て替え、マンション建設など、日々起きる小さな変化にも目を向け、変わる場所に対して提案を考えて届けることが大事だと思います。「変わった後どうなるか」を考えるのが次のステップとして良いと思います。例えば高架化で踏切がなくなると自転車の動きも変わるので、変わることを前提にどうするか考える必要があります。

また、子育て世代の切実な声をどう届けるかについては、各店舗や建物の持ち主に「こう変わったら利用したい」と直接手紙で伝えることが一番効果あります。Web上に公開すると批判にも受け取られかねないので、一つひとつ丁寧に届けるのが良いです。行政の方や商店街の方が届けても良いと思います。店舗入口の荷物をどけてほしいというようなことなら来週にも変えられるかもしれないので、そのような具体的なアクションを積み重ねて、少しずつ街を変えていけるといいなと思いました。



アドバイザー

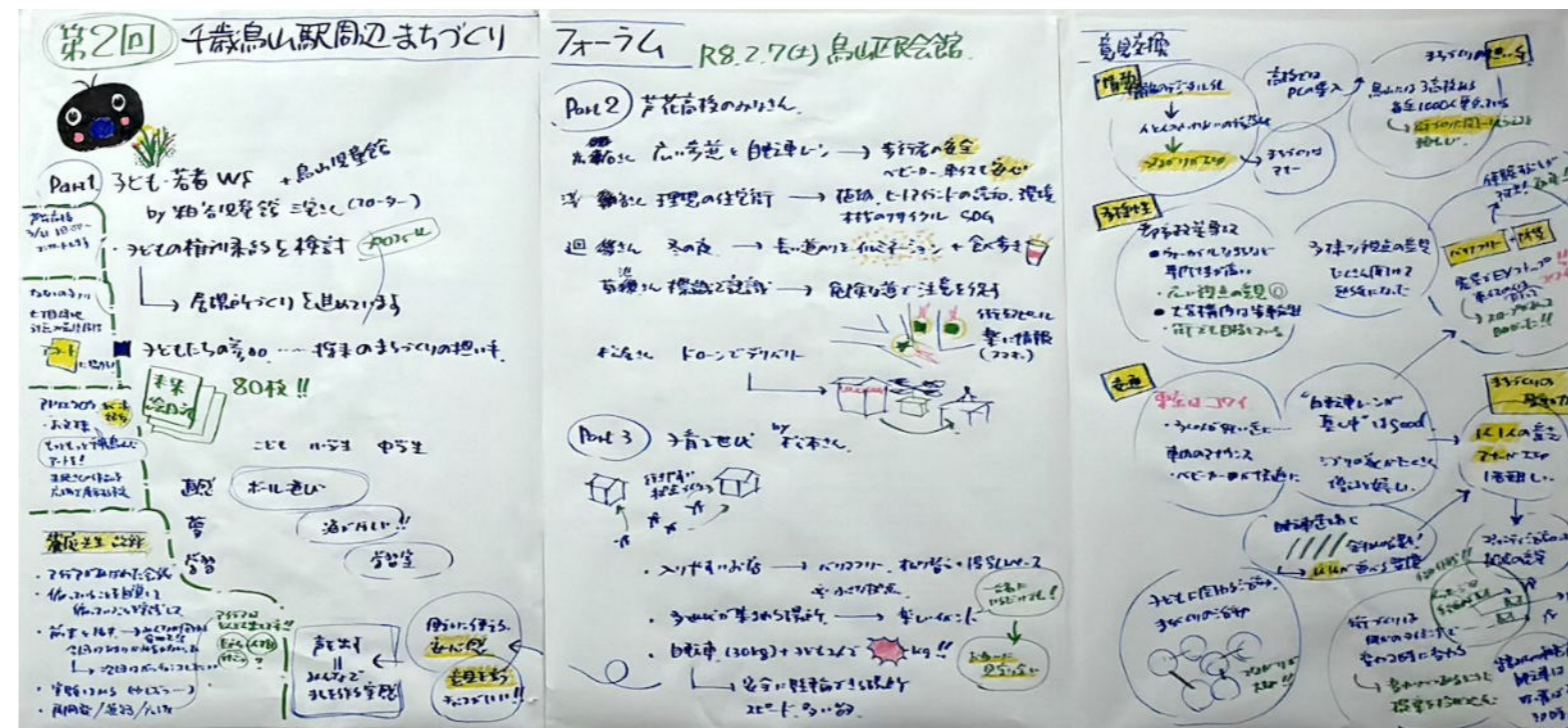
## 1 子ども・若者の発表

## 2 意見交換

## 3 地域グループの発表

## 4 意見交換まとめ・講評

発表と意見交換のまとめ (子ども・若者)



## 3. 地域グループの発表



### ① 商業・にぎわい

烏山のまちがこうなってほしいというのを、夢みたいなものも含めて描いてみました。

再開発エリアを「まちのリビング」に見立てて芝生やカフェのあるみどり豊かな広場にする、子どもから高齢者、障害のある人まで使いやすいバリアフリーな商業施設をつくる、駅前広場を青空フードコートにして人が滞留するにぎわいをつくる、歩行者中心になった駅前通りをオープンカフェ化して居場所にするアイデアが出ました。

さらに、広場や道路でマルシェやジャズなどの文化イベントを開く、再開発ビルの屋上をグリーンスペースにして、空に近いところでキャンプができる、京王線の高架下にAI活用のまち情報パネルや観光案内を設置して情報を集約する、物々交換の掲示板でリユースを促すアイデアも出ました。自転車の多いまちという特徴を前向きにとらえ、「世田谷の北京」ではなく「世田谷のアムステルダム」と呼ばれるような自転車と文化のまちを目指す想い、そして最後に「近くから遠くから世界中からかけつける、らく～にすごせるやさしいまち 千歳烏山」というスローガンがまちなかにあふれると良いというアイデアもありました。話し合っているうちに何かできそうという雰囲気になってきたので、ひとつでも実現させていきたいです。

### ② 公共施設

「公共施設って何だろう？」というところから話をはじめ、結局「まちのみんなで使う場所全てが公共」ということになりました。京王線の高架、区民センターと前の広場、総合支所、再開発エリアなどを対象とし、図書館が狭く子ども連れで使いにくい、広場はよく使われているけれど、夏は暑くて日陰が少ないなど実感を伴った意見が出ました。

まち歩きをしてみると、南側にも子育てステーションなど施設が意外と多いことや、道路計画（補助216号線）も見えてきて、京王線の高架下は「万里の長城」みたいな壁ではなく、みどりにつながる回廊にできたらいいというアイデアに発展しました。区民センターについては活動に合わせた大小のホールが必要、南側の新しい施設と機能を一体化できるかもしれない、という希望も出ました。

最終的なイメージとしては、南北がみどりでつながり、駅から広場までが一体的に使える構成にしたいという話で、施設だけでなく広場などのオープンスペースも含めて、もっと連続性を持たせたいという意見がたくさんありました。また、南側再開発についてもっと知りたいし、やってほしいことだけでなく「これはやらない方がいい」という整理も必要だね、と問題意識も共有しました。

### ③ 交通環境

現状の課題として、とにかく自転車がなくて駐輪場が足りない、路上駐輪が多い、人・自転車・車が入り乱れて子どもや高齢者が安心して歩きにくいことが挙げられました。商店街だけでなく旧甲州街道も歩きにくい、バスやタクシー乗り場が駅から離れて分散している、という不便さもありました。整備される駅前広場に乗り場が集約されると便利になるけれど、商店街を通らずに移動できるので回遊性が落ちるといった心配もありました。さらに再開発によって人や自転車が增多すると、交通が一部に集中する懸念も出ました。

アイデアとしては、駅前広場や高架下に新しい駐輪場をつくる、効率的な地下型の自動駐輪システムを導入する、東西南北それぞれに駐輪場を配置するというものが出ました。通勤通学の自転車と買い物利用の自転車は分けて考え、通勤通学は周辺的大型駐輪場へ、買い物客は店舗前の整備されたスペースへ、という使い分けことがポイントになると考えました。循環バスを走らせて自転車利用自体を減らす案も出ました。

さらに、ルールづくりが重要で、人・自転車・車のレーン分離などを、地域みんなで守っていく運用が必要になると思います。また、自転車で来る人が買い物だけでなく滞在できるように、高架下や駅前広場に子どもの遊び場や若者が集まれるフリースペース、商業施設を組み合わせた場をつくり、今ある広場も含めて滞在できる場として活用することが大事という意見が出ました。

### ④ コミュニティ

地域の情報の伝え方や広場の使い方、挨拶や交流を通じて多様な人が関われるまちにしたいという思いを共有し、まち歩きを通して課題や希望を出し合い、その気持ちを未来絵日記にまとめました。

駅前通りを歩行者が主役の空間にして、ベンチやテーブルを置き、買い物だけでなく座って話したり一緒に食べたりできる通りにする、広場をイベントやパブリックビューイングもできる「みんなの場所」にして、木や植栽を取り入れた居心地の良い空間にする、南側にできる公園をまちの回遊の中心にして、偶然の出会いが生まれる場所にする、小さなコミュニティ農園を各エリアに設けて、作物を育てながら自然に会話が生まれるコミュニティをつくる、子育てと仕事を両立できるスタートアップオフィスをつくるというアイデアが出ました。

未来絵日記に共通していたのは「人と人の距離が少し近づくまちにしたい」という想いで、便利さだけでなく、人が集い、関係が生まれる場所をどうつくり、どう残すかが大事な視点になると思います。このまちにはすでに多くの思いやアイデアがあるので、それを魅力的な未来につなげていきたいです。

### ⑤ 住宅・みどり

まず、みどりや土があることが居心地の良さにつながるので、みどりを増やすことがまちの魅力向上に不可欠で、多様な居住環境を共有し、地域コミュニティを大切にすることも大事だという意見を共有しました。

まち歩きでは、街路樹の足元や小さな空きスペースを活かしてみどりやベンチを増やせるという発見があり、また、再開発エリアではビル風や日照、圧迫感など、実際に歩くことで考えられる課題を確認しました。

未来絵日記には、どろんこ遊びができる子ども広場、将来タワーマンションを子どもエリアに替える構想、京王線を地下化して上部をみどりの避難路にするアイデアが出ました。コンポストや発電床、まちなかクイズ等の様々な工夫で心身が健康になり医療費が減り税金が減る「すべては循環」という発想もありました。さらに、みどりに関われるレンタル花壇や菜園、芝生の広場、高架下のチャレンジスペース、若者が住める花壇付きシェアハウスなどのまちづくりの提案や、同性カップルや障害のある人も暮らしやすい住宅、女性が一人で昼寝できる安心な広場など「ダイバーシティ」をテーマにしたアイデアもありました。

このようなアイデアが実現して、安心安全で、自然にコミュニケーションが生まれるまちになることを楽しみにしています。

### ⑥ 防災

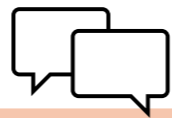
「未来の安全＝防災」という考え方をもとにワークショップを進めました。昨日も地震がありましたが、普段地震がないと人はすぐ忘れてしまうからこそ、日常の中で防災を思い出すことが大事だと思います。

まず、マンションと町内会の防災体制が繋がっていないこと、情報共有不足が課題として挙がり、まちの中にある防災資源を「見える化」する必要があるという意見が出ました。まち歩きでは、防火水槽や防災井戸、中学校のプールなど使える資源が意外と多いのに知られていないのがもったいないという発見がありました。

未来絵日記には、テレビもスマホも使えない状況を前提に、避難ルートや防災地図を普段目にする場所に分かりやすく表示する、防災に関わる人が固定化しないよう、日常的に多くの人が関わって防災を考える「防災の日常化」、区民センター前広場で災害時に各々勝手に利用しないよう、ルールを事前に整えておいて多くの人が有効に利用できるようにする、配布されている東京防災や世田谷防災の冊子をコミュニティで読み合わせる機会をつくるというアイデアがありました。

震災経験者から、地震が起きたら何も使えず、最後はボールやツルハシのような道具が役立つという現実的な話があり、停電時に備えた発電床など地域で電力を生み出すアイデアも出ました。烏山が非常に安全なまちと思われるように、防災活動を続けていきたいです。

# 4. 意見交換



## ● コミュニティについて

・近い将来に気候変動や異常気象が現実の課題になっていきます。その時代を生きる次の世代の暮らしを支える準備として、コミュニティづくりを考えました。個人で何でもできてしまう時代だからこそ、人が共生する仕組みを意識してつくる必要があると思います。将来の食料不安も見据え、農や食を通じて人が自然に関わり合う場をつくるのが、コミュニティづくりの近道になるのではないかと、思い未来絵日記⑬番の提案をしました。

## ● 交通環境について

・「世田谷のアムステルダム」という話に関連して、ヨーロッパでは車より自転車優先の交通環境が整っているため、多くの人が自転車を利用するまちになっている話を授業で聞きました。また、経堂のように自転車利用が多くても放置自転車が少ない地域もあるので、国内外の事例を参考にすると、面白い解決策も出るかと思いました。  
・今回初めてまちづくりの場に参加したのですが、愛着と熱意を持ってまちのことを考えていることに安心し、さらに千歳烏山が好きになりました。特に「回遊性」という視点に共感し、西友通りと西口通りの行き来をしやすくするなど、高架化を機に南北の分断を解消するだけでなく、東西方向も含めてまち全体を歩いて楽しめるエリアになるといいなと思います。さらに、地域同士全体で連携や絆が強まれば、防災面でもプラスになると思います。

## ● ユニバーサルデザインについて

・身体に麻痺がある人や働けない状況の人にとって、住宅を借りる際に手すりの設置などを理由に入居を断られる現実があります。まちが新しくなるなら、車椅子利用者などが安心して暮らせる住宅や、手すりの追加など個々の身体状況に合わせて柔軟に改修できる仕組みを備えた住宅が、一か所でもあったらいいと思います。  
・海老名駅は高架の駅ですが、エレベーターの設置や商業施設の配置によって高齢者なども使いやすく便利な駅になっています。千歳烏山でも今後の高架化に向けて、同様にバリアフリーや利便性を考慮して準備しておく必要があると思います。

## ● 今後のまちづくりについて

・長く続いた蕎麦屋や介護事業などが、高架化などのまちづくりの影響で続けられなくなってしまいました。高架化などにより急速に変化していく可能性があるため、その先行きが不安です。  
・素晴らしい提案がたくさんありましたが、例えば再開発や補助216号線の整備に、実際どこまで反映されるのか、相反する意見をどう整理して実現につなげるのかが見えにくく、不安があります。  
・自分も怪我をしたときに経験からバリアフリーの重要性を実感しました。今後予定しているワークショップは、高齢者や様々な障害のある人などに対象を絞って行えば、より具体的な意見が出るのではないかと思います。さらに、再開発で新住民が増える中で既存住民との分断を避けるため、外国人住民を含めたコミュニティづくりの視点も必要で、外国人だけのワークショップのような場も有効ではないかと思います。

このまちづくりフォーラムは再開発の南側地区だけでなく、駅周辺全体の将来像を考える場として進めています。今後ビジョンづくりを進め、まちの将来イメージを「見える化」し、皆さんと共有していきます。新しく来る住民の方や店舗の建て替えを行う人などに「このまちはこういう将来像を目指している」と伝えることで、皆さんの提案に基づくまちの方向性に沿った整備や設計が進むことを期待しています。再開発の準備組合ともまちの将来イメージを共有して、まちづくりを進めていきます。

・商店街からも生徒を地域の一員として受け入れてもらっていることは本当にありがたいです。高校生は地域と関わり学びながら成長していき、社会を担う存在になっていきます。地域の支えを受けながら、次の世代へつないでいく担い手として見守っていただけると嬉しいです。



烏山総合支所  
駅周辺整備担当課長



アドバイザー

## 【全体のまとめと講評】

いろいろなアイデアを聞いて面白かったです。夢のスケッチである未来絵日記ですが、テーマを飛び越えて夢が暴れまくっている感じが良く、そのような夢がまちづくりのスタートのエネルギーになると思います。

ただ、その夢を区がまとめてくれるのを待つのではなく、参加者自身が他の人のアイデアを見て、「これとこれを組み合わせたら何が出来るか」を考えることが大事です。その過程で、自分の関心や視点がどれだけ偏っているかに気づくと思います。偏りをなくするのはとても難しいです。まず偏りを自覚することが大事で、そのうえで偏ったことを行えば良いです。

実際、今日の前半と後半では話題がかなり違って、後半では子育てや高校生の話がほとんどありませんでした。今日、ひとつの場で交流することでお互いの偏りが見えてきたので、次はお互いを知ることに取り組んでみると良いと思います。

今後は調査、実験、計画の3つを意識して進めると良いと思います。1つ目はきちんと調べる。特に交通の問題は感覚ではなく数字が大事で、自転車やバスの流れや量を具体的に把握する必要があると思います。2つ目は実験してみる。例えば道路に椅子を置いてみるなど、小さな試みでも実際にやってみることで見えてくるものがあります。3つ目は具体的な計画につながるアイデアを出し続けること。例えば再開発は、最終的には地権者や事業者が決めて実現させますが、本当に良いアイデアは必ず使われるので、遠慮せず提案し続けると良いです。

そして、今後それらの活動を行う際に、高校生や子ども、子育て中の人たちも参加できる「余地」があることが大事になると思います。グループでワークショップ等を行っているようですが、若い世代や多様な立場の人が関わられるかたちで来年の活動をデザインしていくと良いと思います。

## 発表と意見交換のまとめ（地域グループ）

